



## 『缶詰になって書く会』報告

8月7日（水）、20日（火）の二日間、宮内小学校において「缶詰になって書く会」が開催されました。会員の方や学芸大会に参加する学校の先生方等、ご自分で脚本を書いてみたいと思う多くの方々にご参加いただき、とても充実した会となりました。

昨年度に引き続き、今年度も講師に日本児童劇作の会常任委員・元成城学園初等学校教諭の木村たかし先生にお越しいただき、参加者一人一人に丁寧なアドバイスをいただきました。常任委員と児童文化研究会のOBがアドバイザーとしてつき、それぞれの参加者と一緒に相談をしながら進めていきました。

### 事前の構想（参加者より）

- ・社会科の「ごみ」の学習を入れていきたい。
- ・国語の学習で取り組んだ内容をつなげて発表の形にしたい。
- ・総合的な学習の時間で取り組んでいる福祉についてベースとしたものを書きたい。
- ・学年の目標をテーマにして、学校の木や地域の伝統等も入れたい。
- ・コロナ禍でいろいろできなかった時期のことと今を場面ごとに表したい。
- ・70周年の式典に向けてつなぎの部分をつくっていききたい。 等

参加者のみなさんは、学校の子どもの様子を目に浮かべながらプロットを組み立てていきました。児童文化研究会の過去の作品例（脚本集）等を参考にしたり、常任委員も一緒にアイデアを出したりする中で、みなさん執筆に集中して取り組んでいました。

### 講師からのアドバイスより

- ・脚本を書く時に、何も無いところからスタートするのは時間がかかる。芝居は動いているところから始めたほうがよい。例えば、喧嘩の場面から始める等。
- ・終わりをどうするか、クライマックスを何にするか等、決めてから書き始めた方がよい。
- ・開幕3分で何が起きているかが分かるものにするとよい。
- ・たくさん場面を作るより、一幕で書いた方がよい。
- ・練習時に待っている時間が長いとあきてしまうので、どんどん活動させてその時間をうまく使っていくとよい。やっていると、自分の姿や声の大きさが分からないので、互いに見せ合う時間をとることが大切。全体を流しながら、部分練習をしていくとよい。
- ・練習の中で、「劇の中では何でもできるんだよ」と子どもたちに伝えるとよい。架空の中では“できる”という体験が大切である。教師が面白がってあげると子どもたちは伸びる。
- ・舞台の大きさを測っておいて、練習をしていくと加減が分かる。小道具を持たせることで手持ち無沙汰にならない。使うときは、早めの練習から使っていくとよい。

「脚本を書き、劇の指導をすることにはたいへんな苦勞がともないますが、舞台の上に立つというどきどきワクワクする経験を子どもたちがするという事は、生涯心に残る大切な思い出となります。先生方もぜひ楽しんで取り組んでください。」と、木村先生から激励をいただきました。

参加された先生方が書かれた脚本を元に、子どもたちがそれぞれの場所ですばらしい経験ができることを期待しています。

## 『人形劇まつり』報告

今年度で36回目を迎えた『人形劇まつり』に「ソックスパペットシアター くつした座（旧名：ゆかいな仲間たち）」が参加しました。「旧名：ゆかいな仲間たち」は、児童文化研究会の会員の有志で結成された人形劇団です。児童文化研究会が人形劇まつりに参加し始めたのは数十年前、当初は「しんちゃんとゆかいな仲間たち」でした。時代の変遷を経て今年度より名前を「ソックスパペットシアター くつした座」と劇団名を改めて、岡信行氏を中心に活動しています。

『人形劇まつり』は9月22日（日）に川崎市市民プラザで開催されました。市民との触れ合いの場を築くことで、児童文化の再振興と地域文化の向上に寄与することを目的として行われています。児童文化研究会では有志を集いアマチュア団体として参加しています。今年度は14名の有志が上演に携わり、岡信行氏が執筆した『ライオンがやってきた』『おたまじゃくしはかえるの子?』の2作品を上演することができました。上演日までオンラインによる2度の練習を行い、本番を迎えることができました。



### 【出演者の感想】

今回、初めて参加させていただいて、すごく人形劇の魅力を感じました。動かしているのは人形（パペット）だけど、それを演じているのは先生方なので、舞台をつくりあげていくうえで熱い思いが込みあがってきました。子どもたちもやっぱり人形劇の世界に引き込まれていく様子を肌身で感じることができました。この経験を小学校でもできいかせたらいいなと思いました。

### どんぐり広場は大さわぎシリーズ『ライオンがやってきた』

○やさしいライオンと一匹キツネがどんぐり広場にやってきた。ネズミ、ブタ、ウサギのどんぐり広場の仲間たちは、大さわぎ。ライオンは果たして、友達がほしくてどんぐり広場までやってきたのだろうか？そして、1匹キツネはいい仲間なのか？ライオンとキツネの関係はいかに？どんでん返しのあるおもしろいストーリーである。

### ひょうたん池は大さわぎシリーズ『おたまじゃくしはかえるの子?』

○関西弁や盛岡弁などいろいろな方言を流暢に喋る登場人物がおもしろい。2匹のオタマジャクシの兄弟がでぶっちょな母さんガエルみたいになりたくない、将来何になりたいか話し合っている。池の中を泳いでいると、ゲンゴロウ、ザリガニ、カメと出会い、何になりたいかいろいろ考えていきます。オタマジャクシの兄弟がたどり着いたその答えは果たして？



